

第6回 コウノトリ但馬空港のあり方懇話会 議事概要

日時 令和8年2月16日（月）15:15～16:55

場所 但馬空港ターミナルビル2階 中会議室

1 利用促進施策の検討

- ・ 若年層向け運賃施策（スカイメイト）の利用者が上半期で前年比約2倍、ほかにもタイムセール等の効果も着実に出てきている。
- ・ 靴産業等の地域一体型オープンファクトリー^{*}の取組みに合わせて、全国からビジネス、観光客を誘客し、但馬の利用促進につなげていきたい。
※生産現場の公開や、来場者にもものづくりを体験してもらう取組み
- ・ 観光面では、城崎温泉について首都圏からの問合せが増加。但馬空港から伊丹空港乗継による全国へのアクセス利便性の高さは、住民・観光客双方にもっとPRをすべき。
- ・ 地域の子どもを対象とした体験搭乗・日帰りツアーなどは貴重な体験であり、利用促進と航空教育の観点で継続すべき。
- ・ 首都圏・阪神間からの誘客強化に向け、旅行会社による但馬伊丹便を利用した商品造成への助成を検討したい。
- ・ 空港の玄関口機能を高めるため、（道路でいう道の駅みたいに）「空の駅」のような隣接地活用も視野に置くべき。
- ・ 芸術文化観光専門職大学（学生・受験生・教職員）への周知や、オープンキャンパス・演劇祭などイベント時のピンポイントなPRも有効ではないか。
- ・ 但馬空港は利用促進の意識が高く、地域としての取組み姿勢が強み。

2 新たな路線展開

- ・ インバウンド利用者を拡大する観点から、国際線の就航空港と接続する路線の価値は大きい。
- ・ 3月に但馬空港へのチャーター便を運航予定の新たな航空会社との連携・交流をいかに活用するかも大事。
- ・ 人の流れを呼び込むため、国際定期チャーター便が就航した神戸空港や、但馬地域から移動時間がかかる関空に就航すれば活性化するのは。
- ・ 北陸新幹線や山陰近畿道の延伸など北近畿全体の交通ネットワーク強化と合わせ2000m級滑走路を実現できれば、羽田直行便や東アジア便（韓国、台湾等）の誘致が可能となる。
- ・ 過去に釜山への国際チャーター便実績があり、国際線就航の可能性もあるのではないかと。

3 防災機能の向上

- ・ 防災拠点空港として活用するには、空港単独では不十分で、道路網など地域全体の交通インフラ整備が不可欠。
- ・ 能登半島地震の教訓から、道路網が途絶した時には空輸機能が極めて重要となる。中山間地での空路の役割は大きい。
- ・ 但馬地域では令和5年の台風7号でも被害があった。新たな地域防災拠点施設も整備されているが、災害時には陸路途絶の恐れがある。但馬空港と地域防災拠点施設間の空路輸送があれば、より防災力が強化される。
- ・ 山間地に位置する但馬空港での土木事業は難度も高くコストもかかる。RESA 整備は法令に定められた国際基準に適合させるため不可欠。コスト抑制と安全確保の両立を図りつつ推進すべき。

4 就航率の向上

- ・ 今年度は、大雪や機材要因による欠航が増加している。航空機メーカー側のサポート強化や予防的な整備、機材繰りの工夫などが運航品質の改善に繋がる。
- ・ 一度でも欠航に遭った利用者は“代替手段”を意識することになるため、就航率改善の努力が必要。
- ・ 今後、LPV200（準天頂衛星を活用した高精度進入方式）の導入で天候起因欠航を低減できる可能性に期待。
- ・ 住民が安心して使える空港であることが地域の発展に不可欠。欠航便削減の努力を続けてほしい。

5 空飛ぶクルマ（eVTOL）の社会実装

- ・ 豊岡市の社会実装プロジェクトは観光・生活利便・医療・防災面で意義が大きい。但馬空港を活用したバーティポート整備の取組みを進め、未来志向の地域社会づくりのモデルケースを目指す。
- ・ 空飛ぶクルマは、物流での活用が最も現実的。飛行コスト面からも物資輸送の方が人流よりは先行可能性は高く、大規模災害時に役立つ。
- ・ 観光用途では城崎温泉が最有力の空飛ぶクルマの初期拠点。富裕層向けに短距離輸送で但馬空港と連携することで、2次交通の手段として活用可能性が広がり、将来的には但馬空港を起点に出石・香住・京丹後方面などへの展開も期待。
- ・ 観光アトラクション的な活用という新たな視点も可能。

6 二次交通の充実

- ・ アンケート結果によると、但馬伊丹便利用者のうち観光客の 56%が空港から路線バスを利用。その行き先は豊岡・城崎が 7 割で、現在の路線設定は妥当。バスから豊岡駅で鉄道やバスへ乗り継いで色々なところへ行けるという乗継情報の見える化・案内強化が必要。
- ・ 二次交通の利便性向上（レンタカー、レンタサイクル、タクシー等の利便性改善）の対策を考えた上で、現行の但馬伊丹便のダイヤの発着時間にあわせた但馬地域での過ごし方について、具体的な例を PR してはどうか。
- ・ 空飛ぶクルマへの期待は大きく、自動運転とセットで活用できれば空港からの二次交通の利便性が高まる。

7 その他

- ・ 論点が広いので、優先度や時間軸に沿った整理も必要。
- ・ 現空港を活用することをまず優先すべき。現実的な利活用と地道な取組みを積み重ね、空港維持と価値向上を図るべき。
- ・ 空港は地域の子どもに夢を与える存在。搭乗体験機会の継続が重要。
- ・ 国内航空事業は費用高騰などで厳しい経営状況であり、収益安定のためには収入増（利用拡大）とコスト抑制が欠かせない。